

展示物

①東日本大震災、南海トラフ地震、高速道路等の役割を紹介するパネル（例）

■南海トラフ地震

きよ たい じ しん つ なみ

巨大な地震・津波

巨大な地震・津波が発生。さらに通行不可能となる道路が多数発生し、生活に大きな影響を与えることが想定されます。

●地震震度分布

●津波の最大値と1mの津波到達時間

●道路の閉塞率

建物倒壊や津波浸水等により、幅員の狭い道路を中心に道路が閉塞し、通行支障が発生する割合

国土交通省 四国地方整備局

■四国8の字ネットワーク

信頼性の高いネットワークの確保

～南海トラフ地震に備えて緊急避難路の整備～

津波が押し寄せる地域の道路に、避難階段や避難路の設置を進めています。災害発生時に緊急車両や災害復旧車両などの出入りができるよう緊急連絡路の設置も進めています。

国土交通省 四国地方整備局

高速道路区域への津波避難場所設置に向けた取り組み 【徳島県】

約6,350人の避難が可能に！
(H31.3末時点)

徳島自動車道(鳴門JCT)徳島IC

平成27年3月14日開通

浸水深(m)
10.0～
5.0～10.0
4.0～5.0
3.0～4.0
2.0～3.0
1.0～2.0
0.3～1.0
0.01～0.3

<凡例>
青字：道路法24条・承認工事
赤字：道路法32条・占用許可
黒字：一時使用協定(会社施設の運用)
○：整備中

徳島県津波浸水想定(H24.10.31)

沿岸部の市町には、「津波避難困難地域」が多数存在

本県では、東日本大震災以前より、高速道路のり面が津波避難場所として有効であると着目し、機会ある毎に政策提言を実施

H23.5 【政策提言】
「津波避難場所を占用許可施設」として道路法施行令に明記すること

H23.8 提言を具現化する独自の取り組み

H25.4 道路法施行令の改正が実現

高速道路ネットワークを「賢く使う」!

H26.2 この取り組みをさらに加速

効果

- 住民の安全・安心
- 津波避難困難地域の解消
- 津波避難場所設置に伴う費用負担軽減

約6,350人の津波避難場所を確保

北原工区津波避難場所(1.6.23現地視察)

米津地区津波避難場所

「助かる命を助ける」という理念

- ◆道路が持つ付加価値
- ◆道路はつながってこそ効果を発揮
- 地域防災力の向上!
- 本線の整備促進を!!